

1 単元 「伝える力」を身に付けよう

2 教科の目標

伝え方のスキルを学ぶことにより、相手に分かりやすく伝えることができる。

3 活用したICT

校内LAN（動画コンテンツ）、コンピュータ、プロジェクタ

4 活用したICTの特性

- ・ どんな場面でどのような動きをすればよいのか、視覚で直接、要点を捉えさせることができる。（校内LAN、コンピュータ、プロジェクタ）

5 実践の様子

ねらいの達成には、学習用動画コンテンツの使用が有効であり、数あるサイトの中でも、「NHK for School」が適切であると考えた。

「NHK for School」は、トップページの工夫（資料①）により、思い立ったその時に、家庭でも学校でも、必要なコンテンツを簡単に、素早く選択して視聴することができる。校内LANを活用すれば、教室でいつでも簡単に視聴できる。

朝のスピーチ活動などの常時活動で、話し方や目線、姿勢について指導を続けていたが、じっと動かずに話す子どもの姿が気になっていた。そこで、コンピュータとプロジェクタを使い、「伝える極意」という番組の「驚きのハンドパワー、スピーチ」という回を選んで子どもたちに視聴させることにした（資料②）。

番組内では、以下の3つの要点が分かりやすく示された。①ナンバリング、「一つ目は、二つ目は・・・」と、指で表す手の動作のこと。②心の動きや変化も手で表せるということ。③ホームポジション、手は下腹のところに置きながら話すということ。

番組視聴後、話し合い、まとめた後で、「自分の好きなものを2つ、『ハンドパワー』も使って相手に伝えよう」という課題を与え、ペアでスピーチの練習をさせた。

ペア練習では、普段おとなしい子ども、明るい表情で生き生きと練習できた（資料③）。写真の左の児童は、ナンバリングを活用している。その隣の児童も手を大きく開いて、思いを伝えている。活動後、何人かの児童に聞き手としての感想を聞いてみたところ、「いつもよりも、話の内容がよく分かった」などの感想が聞かれた。

6 成果と課題

- 動画コンテンツを使用したことにより、視覚で直接、短時間で要点を絞って効率よく捉えさせることができた。体の動きを学ばせたい時には特に有効であると感じた。また、コンテンツ内で同世代の子たちが活動する様子を見て、自然に「動画で見たようにやってみよう」と考え、積極的に活動することができた。
- 聞き手としての感想をプリントに書かせて残し、話し手にフィードバックしたり、「ハンドパワー」の効果を評価する材料にしたりしていきたい。



資料① 表と検索機能が使いやすい、「NHK for School」のトップページ



資料② 教室で番組を視聴する様子



資料③ ペア練習の様子